

令和2年度 臨時部長会議 会議記録（要旨）

開催日時：令和2年10月28日（水） 8時45分から9時00分まで

開催場所：市長公室

出席者：佐藤市長、木下副市長、代田教育長、櫻井総務部長、塚平総合政策部長、細田リニア推進部長、米山リニア用地担当参事、松下市民協働環境部長、清水健康福祉部長、遠山産業経済部長、星野産業経済部参事、北沢建設部長、島崎建設部参事、土屋上下水道局長、宮内市立病院事務局長、串原市長公室長、原会計管理者、吉川議会事務局長、今村教育次長、青木地域人育成担当参事、赤羽目消防長、高田南信州広域連合事務局長、塚平財政課副参事、原田秘書広報課長、田中企画課長

会議内容

1 市長あいさつ

10月18日の飯田市長選挙で当選をいたしました佐藤健です。よろしくお願いします。

再び皆さんと一緒に仕事ができるようになったことを大変うれしく思っている。現職の市長と前の副市長が戦うということで、皆さんに複雑な思いを抱かせてしまったと思うが、すでにノーサイドの笛は鳴ったので、今日からは心を合わせて新しい飯田市をつくるためにご尽力いただくようお願いしたい。

今回の選挙で、「対話と現場主義」を貫くことを市民の皆さんと約束して当選した。できるだけ現場に足を運ぶということを、部局長の皆さんも職員の皆さんも意識していただき、市民の皆さんのご意見にしっかりと耳を傾けて、課題を確認しながら具体的に解決していくという姿勢で臨んでいただきたいと思う。

また、わたしが副市長の頃から申し上げていたことであるが、市長室・副市長室が「敷居が高い」「縁遠い」という状況にならないように心がけたいと思っている。特に部局長の皆さんには、気軽に相談や報告に来ていただきたいと考えている。それと同様に、各部課においても上司と部下の意思疎通をしっかりと図っていただくようお願いしたい。また、部を超えた連携、課を超えた連携という横の意思疎通も意識していただきたいと考えている。これも副市長の頃に申し上げたことであるが、「のりしろ」を出し合って、それぞれが自分の職責を果たすことはもちろん、他の部や課の仕事にも関心を持っていただきたいと思う。縦と横の連携をしっかりとっていただくようお願いしたい。

わたしの今回のマニフェストの中で、「2050年、飯田は『日本一住みたいまち』になる」と宣言をし、そのためにこの4年間に何をしなければいけないかということで政策をまとめた。大きな方向性は、今皆さんに取り組んでいただいている「いいだ未来デザイン2028」と重なっていると考えている。これからの予算編成作業の中で、いいだ未来デザイン2028とマニフェストに掲げられている個々の政策についてすり合わせをお願いしたい。マニフェストの中には、どの部局が取り組むかわからない政策もあると思うが、「のりしろ」を出し合って取り組んでいただきたい。

市役所職員に対する見方がここまで厳しいかということ、この半年の活動を通じて改めて感じた。やはり市職員は市民の皆さんからも注目されており、特にこの厳しい状況の中ではなおさら仕事ぶりや態度、地域活動も含めて改めて考える必要があると思う。この飯田市役所、市職員に対する評価をひっくり返したいと思っているので、部局長の皆さんにも先頭に立って全力を尽くしていただきたいと思う。

最後に、皆さんには委縮することなく、のびのびと仕事をしていただきたいと考えている。市民の皆さんからは職員に対する批判の声をいただく一方で、職員にもっとのびのびと仕事をさせてあげてほしいという声も多くいただいた。部局長の皆さんはもちろん、それぞれの職員の皆さんにも思い切って仕事に取り組んでいただきたい。まずはコロナ禍を乗り越え、その先もどのような状況になるかわからず、本当に難しい時代であるが、皆さんと力を合わせて一緒に新しい飯田市をつくっていききたいと考えている。よろしくお願いします。

2 閉会